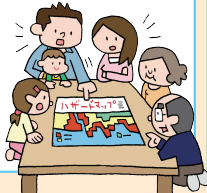

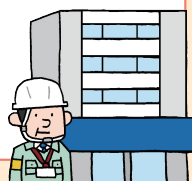


地域の防災～全住民で助け合おう～

安全安心の町づくりで地域防災力を高める

災害が発生した直後は、行政機関が支援活動を開始するまでに時間がかかる場合があり、隣近所にお住まいの方々との助け合いが何より重要となります。

日頃から地域の防災活動に参加し、災害時には地域住民が協力して避難誘導や救護活動をスムーズに行えるようにしましょう。

① 自助 自分と家族	② 共助 隣近所・自主防災組織	③ 公助 町・消防・警察
<p>平常時は・・・</p> <p>防災マップで周りの状況確認 避難場所等や避難経路の確認 非常持ち出し品・備蓄品の準備</p> <p>災害時は・・・</p> <p>家のガス・電気の確認 命を守る行動 家族の安否確認</p> 	<p>平常時は・・・</p> <p>地域の安全点検 防災資機材の購入・備蓄 防災訓練の実施</p> <p>災害時は・・・</p> <p>避難誘導や避難場所等の開設 要配慮者への安全確保 救出・救護活動</p> 	<p>平常時は・・・</p> <p>住民に対する啓発活動 基盤整備の推進 防災訓練の実施</p> <p>災害時は・・・</p> <p>情報収集と伝達 救出・救護活動 避難場所等の開設</p> 

自分の力で避難できない人(避難行動要支援者)を助ける

高齢者・障がいのある方・乳幼児・外国人の方たちは、災害時の避難行動に手助けが必要になる場合があります。日頃からコミュニケーションを取り、平常時にあらかじめ適切な避難方法・避難手順・役割分担を決めておき、早めの避難ができるようにしましょう。

<p>① 高齢者・障がいのある方・病人やけが人の場合</p> <p>災害時の援助者は日頃から決めておき、可能な限り複数人で対応してください。病気やけがの程度に応じて声をかける、手をさえる等の援助をしてください。</p> 	<p>② 車いすを利用する人の場合</p> <p>誰か一人は付き添うことが必須です。段差のある場所では冷静に対応しましょう。 段差の高さによっては車椅子を運ぶ可能性もあるため、二人以上が理想です。</p> 
<p>③ 目の不自由な人の場合</p> <p>目の不自由な方には必ず声をかけてから手助けするようにしましょう。声だけの誘導が不十分な場合は腕を添えて誘導し、ゆっくりと歩きましょう。</p> 	<p>④ 耳の不自由な人の場合</p> <p>正面から大きく口を開けるようにして話しかけ、口の動きだけでも何を言っているかわかることを心がけましょう。口頭で伝わらない場合はできるだけ筆談するようにしましょう。</p> 